

大田区職員9条の会ニュース

第114号 2016年10月19日 編集 大田区職員9条の会事務局
大田区職員労働組合気付

戦争法(安保関連法)成立から1年 改憲の動きが現実には!

組合員、市民のみなさん、私たちは改憲が現実的な課題となった歴史的な局面の入り口に立たされています。私たちは9条改憲を許さないために、政府の改憲をめぐる動きを注視してゆく必要があります。経済政策等を前面に掲げて、改憲には殆ど触れることなく参院選で勝利した安倍政権は、しかし衆参両院で改憲勢力が国会議員の2/3を超えたことにふまえて、一気に改憲に打って出ようとしています。

▶▶▶ 「戦争法」成立1年の今、私たちのまわりで何が起きているか◀◀◀

▷▷南スーダンで自衛隊に「駆けつけ警護」を命令

改憲を待つまでもなく、政府は強行成立させた安保関連法にもとづき、激しい内戦のただなかにあると報道されている南スーダン PKO に派遣されている自衛隊に武器使用も想定した「駆けつけ警護」等の任務を新たにやらせることを決めました。自衛隊員が殺し殺される危険な状況がまさに現実に生起する可能性が高まっています。

▷▷沖縄各地で県民無視の米軍基地強化

参院選翌日未明から、政府は多くの沖縄県民の反対の声を押し切って沖縄県高江村のヘリパット建設再開を強行しました。また伊江村の米軍飛行場で「LHD（強襲揚陸艦）デッキ」の拡張工事を開始しています。沖縄県民の民意を無視し、強権的に米軍の基地強化をおこなう政府に首都圏からも NO の声を上げる必要があります。

▷▷改憲へ向けて「憲法審査会」を再開する政府

政府は国会内に設置されている「憲法審査会」を再開させ、「緊急事態条項」を新設する改憲を狙っているといわれています。これは首相へ非常大権を与える内容であり、現憲法の「主権在民」「基本的人権の尊重」などの国民の諸権利を否定する危険性をはらんでいます。安倍首相は、9条の会ニュースでも幾度も明らかにしてきたように、9条だけでなく現憲法の基本理念を否定する内容の自民党改憲草案をもとにして、改憲論議を進める意志を明らかにしています。さらに改憲を軸にして来年1月に衆院解散・総選挙を実施し、一気に改憲へと突き進もうとしているとも言われています。

9.19 戦争法反対国会前行動 9.28 日本政府による沖縄政府による弾圧を許さない集会

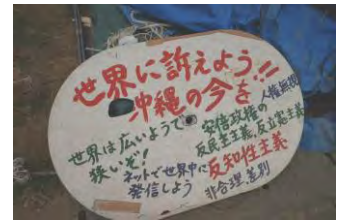
日本を戦争ができる国にするための政府の動きが加速する中、これらに反対する労働組合や市民の取り組みが連続して取り組まれ、大田区職労からも、それぞれの集会に参加しました。

現実に自衛隊が武装することを可能にした安保関連法（＝戦争法）施行、沖縄の民意を無視して進む米軍再編強化の強行、政府がこれから開始する緊急事態条項新設＝改憲の動き。どれをとっても私たちの今後にかかわる重要な問題です。これらの問題を注視し危険な動きに反対してゆきましょう。

沖縄で吹く風を感じた

～南部全労協沖縄ツアー～

10月2日～5日南部全労協主催の沖縄ツアー(総勢20名)に参加した。生憎の台風18号の接近で予定していた伊江島に行くことができなかったが、沖縄で吹く風(台風からの風も含めて)を感じたツアーだった。



◇ 真実を見つめる目 ◇

2日は、米軍普天間基地のすぐそばの佐喜真美術館を見学した。ここでは、沖縄戦の図の説明をしていただきながら観た。真実を見つめる少年の目以外、この絵には目が描かれていないことを知った。ここも丸木夫妻の沖縄戦に対する強い思いが表現されていることを伺い、絵の持つ迫力を支える作者の思いを感じることができた。

◇ 民意に基づく政治の実現を ◇



3日は、台風接近の午前中、川野名護市議にホテルまで来ていただき、沖縄の戦後の歴史と闘い、現状についての話を伺った。「沖縄は何度も民意=これ以上の基地はいらないと示しているのに、安倍政権は名護市辺野古に普天間基地の代替施設だと称して新基地を作ろうとしている。そして今高江に政府権力を集中させてオスプレイ用ヘリパットを作ろうとしている。沖縄では翁長知事を先頭に民意に基づく政治を行おうとしているが日本政府は真逆のことをやっている」など歴史的経過も踏まえた話があった。午後からは参加者だけで討論を行い、今の政治に対して労働者としてどのように主体的に行動するのかなどが真剣に話し合われた。

◇ 海にも山にも基地はいらない ◇

4日は、現地滞在中の世田谷区職労出身の写真家山本さんの案内で高江と大浦湾の見学をした。自然豊かなやんばる(沖縄北部地域)には基地はいらないことを改めて実感した。台風のために工事は行われていなかったが、工事現場を守る警備員と全国から動員された機動隊の人たちのうつろな目が印象的だった。台風の影響を確認しに来た沖縄平和運動センター議長であり現場での闘いの先頭で奮闘している山城博治さんや現地の人たちにも会うことができた。夜は、辺野古現地で闘い続けているヘリ基地反対協の代表安次富さんや抗議船の船長さん2人との交流を行った。「ここで知ったことを是非みんなに伝えて、次は新しい人を連れてきてください」という言葉を是非実現したいと思った。

◇ 地道に闘う現場を実感 ◇

5日は、辺野古に行き安次富さんからの説明のあと、キャンプシュワブゲート前に行った。ここでは、台風接近でたたんでいたテントの復旧作業を現地の人たちと一緒にやった。短い時間だったが、闘い続けるためにはこうした地道な作業に裏打ちされて行われているのだと改めて実感した。ツアー参加者の「このテントの設営に自分も少しは携わったと思うと愛着がわく。共に闘い続けていきたい」という言葉が印象的だった。

オスプレイの横田基地配備に反対する
10・23東京集会

主催：東京平和運動センター、三多摩平和運動センター

2016. 10. 23 (日)

13:30～14:30

多摩川中央公園 (JR 青梅線 牛浜駅下車)